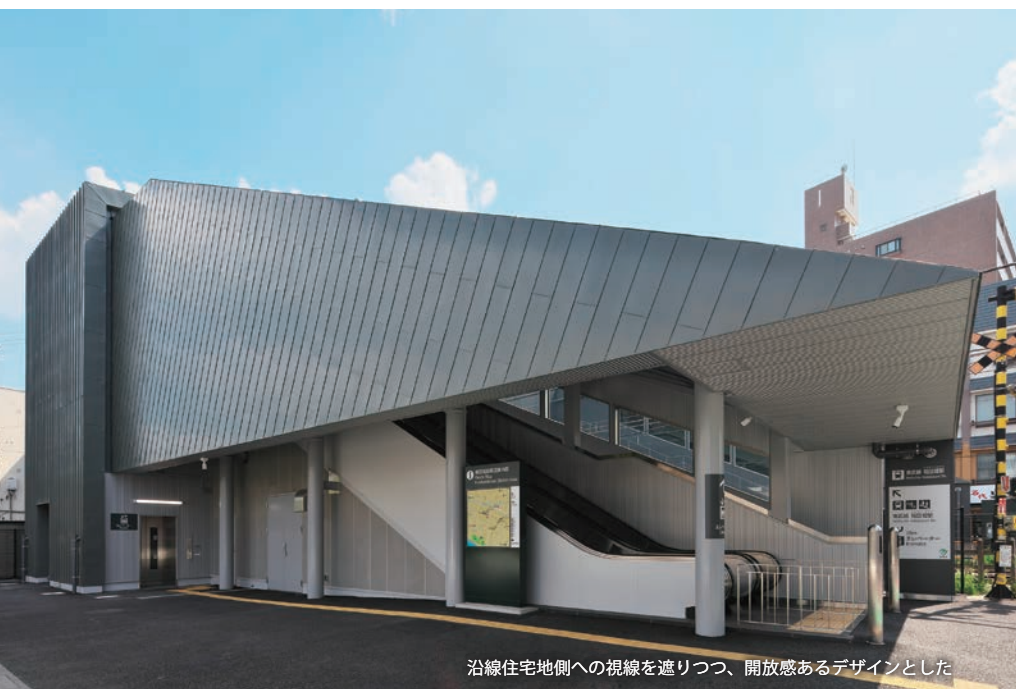


# 大屋根が特徴の橋上駅が 線路と街を結ぶ

JR南武線 稲田堤駅



仮駅舎営業を経て2024年6月に整備計画が完了したJR稲田堤駅



沿線住宅地側への視線を遮りつつ、開放感あるデザインとした



改札口は大屋根の棟の頂部付近に位置する



ホームから見た橋上駅コンコース側のガラス窓。コンコースからはホームや線路の方向へ視線が抜ける

## JR南武線 稲田堤駅の設計方針の概要

日影規制や高さ制限の法規制をクリアする  
変化のある形態の屋根で覆われた空間駅舎を商店街と親しみやすい家型の形態とし、  
屋根を入れ子状に配置軒を低くすることで周辺の街並みへの  
圧迫感を軽減住宅街側を閉じた外壁とすることで、  
プライバシーを確保大屋根の隙間から光を採り込んだ大空間により、  
市民のにぎわいと憩いの場を演出

周辺環境への配慮と駅舎建築としての開放感の両立を目指した

## 自由通路が全面開通

JR南武線稲田堤駅はJR南武線から京王電鉄相模原線への乗り換え駅にあたり、京王稲田堤駅方面の線路南側の自由通路と橋上の駅施設が2023年に先行開業していた。その後、2024年6月2日に、北側通路が供用開始され、自由通路として全面開通した。この自由通路と橋上駅は、踏切待ちの不便を解消し、鉄道駅へのアクセス性を向上させる一策として、整備したものである。そのため、駅舎へのルートでもある自由通路は、エスカレーターとエレベーターも備え、利用者の上下階移動を容易にしている。

## 「開く」と「閉じる」を明確にデザイン

この駅舎用地は都市計画法により、建物の高さや最大規模が制限される用途地域「第一種住居地域」が含まれ、近隣は住宅が立て込んだ一帯だ。施設設計のポイントは、施設を箱状とせず、低勾配の切妻の大屋根として、近隣環境との調和を図った点にある。法令上の日影規制や高さ制限などをクリアし、周辺の住まい手に配慮した。また形状を家型としたことで、住宅や商店街といった街並みとの連続性も生まれた。

線路を横断する自由通路を併設した橋上駅に、切妻屋根の家型の形状を採用した。切妻の大屋根は線路中央を棟の頂点とし、住

宅街に向かって軒を下げていくことで、沿線からの視線が空へ抜けやすくなり、住宅街の中に立つ駅舎建築として、圧迫感を緩和している。加えて、大屋根としたことで内部空間の天井高が高くなり、これも開放感につながった。

自由通路やコンコースでは、ホームと一体となった大屋根を採用、開放的なデザインとした。他方、沿線の住宅地側へは視線が抜けないう、線路に沿った方向の壁では窓などの開口部を最小限に抑えた。大屋根で開放的な大空間を実現しつつ、近隣の住まい手のプライバシーに配慮する意図がある。



## JR南武線 稲田堤駅

所在地	神奈川県川崎市多摩区
用途	駅舎
建築主	東日本旅客鉄道
施工	東鉄工業
敷地面積	1,387.5㎡
建築面積	258.8㎡ (JR)、478.2㎡ (川崎市)、 合計 737.0㎡
延べ面積	490.2㎡ (JR)、576.9㎡ (川崎市)、 合計 1,067.0㎡
階数	地上2階
構造	S造
開業	2024年6月
〈担当〉	
統括	小野淳
建築担当	内海直彦*、小内慶二*
構造	平井孝*、江原栄次、菊池大、 鈴木ちひろ*
設備	池末信一郎、宮本かおり*
電気	和田守廣*、角田敦
仮設施工	鈴木一男
積算	田沼利保
サイン	齊藤直子、田口光
C G	青城伸太郎 (*は元社員)

## PROJECTS JR南武線 稲田堤駅

当社HPでも同物件のご紹介をしております。ぜひ、ご覧ください。

